

3D都市モデルを活用した被災状況の即時AI診断と要救援対応箇所の可視化

事業概要（フェーズ1）

内容

ドローンで取得されたLiDAR点群およびカメラ画像データを3D都市モデルと統合して活用し、有事の際に迅速に被害状況を把握するシステムを開発する。

背景・経緯

能登半島地震で親族が被災したことに加え、2024年という現代においても未だに被災調査がアナログ対応を前提としている仕組みのために被害実態把握が遅れて命を落とす人々がいることを知ったため。

狙い、波及効果

各自治体への3D都市モデル整備が国策として進められており3Dセンシングによる被害把握が可能なデジタルインフラが今後普及することで従来の防災・被災対策を抜本的に変えられる。

事業化

自治体向けの防災Saasとして販売する。PLATEAUで3D都市モデル整備を進める自治体を中心として、地場のドローン運航事業者と提携する形でインフラや建物の異常検知・被害判定のシステムを提供する。平時は自治体の任意のタイミングで定期的に各種インフラほか自治体所有施設の点検・異常検知を行う。災害発生時など有事の際は地域の災害状況の調査・判定を行い、判定結果のデータについては政府機関・自衛隊・消防庁などと即共有されることで迅速な救援対応を実現する。保険会社などの民間事業者に対しては、データを有償で提供する。

株式会社シナスタジア

本社所在地	東京都中央区日本橋小綱町19-8
設立／資本金	2016年9月1日／40万円
従業員数	7名（2024年11月現在）
事業内容	ソフトウェア製造業

